



「こんにちは 市長です」

10月1日号

今思い返せば「よくもまあ、あの水を飲んでいたもんだ」と思います。昔は井戸水です。ハンドルを上下に動かして出てくる水は鉄分が多かった。白い布地を水口に巻き付けて、濾(こ)して飲んでいました。1週間もすると布は真っ茶色になるんです。太田市の水道事業は戦争の始まる2年前でした。中島飛行機が行け行けムードだったと思います。戦闘機を造るのに多分ですけれど鉄分の入った井戸水は使えない、「水道だ!」ということになったのではないかと。飛行機造りが先にあって住民への水道サービスはじわりじわりと広がり、水道の時代に入っていった。小学校に入るころには水道があったような気がします。水道の普及はあっという間に特別なことではなくなりました。

「石綿セメント管(アスベスト管)」を知っていますか? アスベスト1とセメント5の割合で混合した水道管です。アスベスト? そうあのアスベストです。水道事業が始まったころ、きっと鉄不足だったのでしょう、安くて加工がしやすかった石綿セメント管を使ったのです。そのおかげで水道の普及は一気に進みました。「アスベスト! やばくない?」と思う方もいますよね。厚生労働省は「呼吸器からの吸入に比べ、口から取り入れる場合の毒性は問題になるレベルにない」と言っています。太田市では水道事業が始まって80年がたちます。管も老朽化していきます。1998(平成10)年から鑄鉄管などに本格的に切り替えています。莫大な工事費がかかっています。3市5町でつくった「群馬東部水道企業団」は全国に先駆け設立しました。その伏線には張り巡らせた石綿アスベスト管の布設替えに国の補助金が付く、という狙いもあります。

昨年度の布設替え工事費は21億6千万円(国補助金4億8千万円)、今後3年で一息です。補助金は6年で打ち切られますが継続してもらえれば、と期待しています。お金がかかりますね。

(9/16記)